

ふたりのコラム

November 30, 2021

認定こども園あかみ幼稚園
認定こども園メイブルキッズ

園長 中田幸子
施設長 新井利枝

《3・4・5歳児》

秋の自然いっぱい！

大きなおもちが掘れたよ

園庭のもみじも秋を惜しんでいるようです。時折、冷たい北風が吹きますが、園庭には、子どもたちの元気な声が響いています。保護者会事業のいもほりの作業として、たくさんの皆様に除草やいもほり後の掘り起こしを行っていただき、ありがとうございました。おかげさまで、大きなおもちがたくさん掘れて、子どもたちは大喜びでした。焼きいもなどにして、おいしくいただきました。

大豆・黒豆の脱穀

園から少し離れたところに畑があります。そこで、地域の方々（ファームの方々）と大豆・黒豆を作っています。10月に収穫し畑に干して乾燥させた豆を、園庭で脱穀しました。子どもたちは、脱穀をする様子を見たり、一緒に行ったり、お話ししたりしていました。（まだお若い）おじいちゃんたちとの楽しい交流の時間になりました。



おいしい新米 先日メールでもお伝えしましたが、JA 栃木より新米3種をいただき、かまどに薪をくべて炊きました。炊けるまでの薪においも心地よく、炊けて窯のふたを開けた時は、湯気とともにおいしい香りがしてきました。ご飯だけを味わう…そのお味は格別でした。

今年も秋ならではの活動をたくさん経験しました。

世代間交流やいろいろな体験は、遊びや生活を豊かにしてくれます。子どもたちは、見たり聞いたりしたことを模倣し、再現して、ごっこ遊びを展開します。そのごっこ遊びを通して、創造力や思考力が育まれていきます。幼児期の「遊び＝学び」が豊かになるということは、学びを深めるということです。そのような視点からも、私たちは、豊かな実体験を大切にしたいと思っています。

楽しかったおまつり！

今年の秋まつり（保護者会と園との共催事業）は、三役、お父さんスタッフによる当日企画もあり、親子で参加いただき、皆様とともに楽しい時間を過ごすことができました。あかみ幼稚園の保護者の皆様の、子どもたちへの熱い思いと自らも楽しめる力は、素晴らしいものだと改めて感じました。これからも保護者の皆様と子どもたちの成長を共に喜び合っていきたいです。どうぞよろしくお祈りします！！



公開保育（子ども・子育て国際フォーラム）

佐野市子ども・子育て国際フォーラムが、今年度10月に開催されました。このフォーラムの一部としてあかみ幼稚園が公開保育を行いました。保育をご覧になった東京大学発達保育実践政策学センター（CEDEP）の先生たちからは、当日の遊びから子どもたちの具体的な学びについてお話をいただきました。今回の公開保育はもり2組の保育ですが、あかみ幼稚園の5歳児の学びの姿として、他学年の方もわが子の育ちゆく姿として見ていただけたらと思います。申し込みいただいた方は、見逃し配信でご覧いただけますが、お申込みしそびれてしまった方は、連絡アプリからお申し込みの上、ぜひご覧ください（12月上旬配信予定）。

おうち時間・・・親子で絵本を

日が暮れるのが早くお家の中で過ごす時間が長いこの季節、お子さんと一緒に絵本を読む時間も増えているのではないのでしょうか。

絵本を親子で読むことは、とても大切な時間です。

- 親子の触れ合い…「安心・信頼」「親子の絆の深まり」
- 文字や色・形状などの自然な出会いから…「色や形、動物、物」「視覚を刺激」「言葉の面白さや物事のつながりなどの理解」
- 豊かな発想力…「想像」「創造」

このような願いをもって、
当園での絵本の貸し出しを
行っています。



さて、CEDEPの共催セミナー「デジタル時代の子どもと絵本・本」シリーズがあります。

その中で、先の公開保育であかみ幼稚園に来園されましたCEDEPセンター長の遠藤利彦氏は、「絵本は人と人をつなぐ。それ自体が探索の対象となる。そして遊びを豊かにする。」と言っています。

また、CEDEPの酒井邦嘉氏によりますと、脳科学の視点からも読書は重要であり、デジタルではなく、紙媒体のほうが記憶の定着、思考や創造性にも役立つという研究結果があるそうです。乳幼児期における絵本の読み聞かせは、いろいろな意味からも紙媒体の絵本を親子で読むことが良いようです。

おうち時間を楽しく、有意義なものにしてくださいね。

それから、大人も紙と電子機器を目的に応じて使い分けることが重要であるとのことですよ。

- 絵本がなくとも子は育つ。でも、絵本があればより豊かに育つ、大きな可能性が拓ける。
- 絵本の効果：十分には明らかにされていない。
- あればいいのではなく、どう使うかが問題。
- 絵本は文化が紡いできた究極の遊び・学び・コミュニケーション支援ツール→要は使い方。
- 特に文字や知識習得の入口としての効用大。
- 放っておいても獲得される音声言語（生得的）
ほったらかしでは獲得されない文字言語。
(遠藤氏)

「脳を創る」ことの意味

1. 読書を通して、言葉の意味を補う「想像力」（行間を読む能力）が自然に高められる。
2. 読書を通して思索に耽ること、自分の言葉で「考える力」が自然と身につく。
3. 読書経験を通して、脳が変化し成長する

紙媒体は想起の際の手掛かりが豊富であるため、記憶の定着に有利であることに加え、その高い記憶力を元にした新しい思考や創造的な発想に対しても役立つ・日常生活において、紙の製品と電子機器を目的に応じて使い分けることで、より効果的な利用につながると期待される（酒井氏）

★詳しくお知りになりたい方は、CEDEPのHPをご覧ください。他にも、興味深いセミナーや研究報告があります。

（文責：中田）

《0・1・2 歳児》

朝晩の冷え込みも厳しくなってきましたね。ビオトープの木々も赤、黄と色づきが強まり、日に日に落ち葉が舞っている今日この頃です。晴れた日には、元気に園庭を駆け回る子ども達……。秋の深まりとともに保育も深まってきています。

「やりたい!」「できた!」という思いを保育者に受け止めてもらいながら、最近のメイプルの子も達は果敢に様々なことにチャレンジしています。



お芋畑で、お宝さがし!



「先生、見て!登れるよ」



ヤギのるるちゃんとも仲良しだよ!



葉っぱでお料理作るよ!



紅葉を見ながら、おしゃべりタイム!



築山から降りるのも怖くないよ!!

これから来る冬の寒さにも負けず、元気に過ごしていきたいと思います!!





私事ですが、もう何年も歯医者にかかることもなかったのですが、最近どうも奥歯に違和感が出始め、先日久しぶりに行ってきました。

特に虫歯等ではなかったのですが、以前詰めた所が古くなっているとのことで、再度詰めなおしになりました。久しぶりの歯医者にちょっと緊張してしまいました。

私の娘は、噛み合わせが良くなく、小学校の検診で矯正歯科の受診を勧められ、1年生から歯列矯正をしていました。小さいころから、何となく下顎がでているなど感じて

いたのですが、成長すれば大丈夫かな？くらいに思っていました。私自身も、歯並びは決していい方ではなくどちらかというと、コンプレックスを持っていました。(親子って変なところばかり似るんだな・・・と思いつつ、矯正を続けてきました。) 矯正の甲斐もあり、今では噛み合わせも正しくなりました。他の病気と違って、口腔関係は、何となくやり過ぎてしまうことが多いそうです。

先日、読売新聞で「口腔機能不全症」についての記事を見つけました。2018年より新たな病気のひとつとして認知されたそうです。

口腔に関わる機能は、生きるうえでも重要な機能ですね。「食べる」「呼吸する」「話す」「表情」・・・コミュニケーションにも関わっていきます。

乳幼児期から口腔機能の正常な発達を促すことが重要だそうです。

メイプルキッズの小さな子ども達も、園での食事の中で、咀嚼や嚥下の具合等、保育者がしっかり観察しています。離乳食の進み具合も、月齢に達したからではなく、お子さんの状況を保護者と確認しながら進めるようにしています。

よだれも成長にとっては、必要なものですが、口を閉じられるようになると垂れなくなります。口を閉じて、鼻呼吸をすることがよいそうです。

口呼吸が多いことによって、口が乾燥し虫歯になりやすくなってしまうこともあるそうです。

普段からしっかり噛んで食べること、口を閉じることなど意識して、ちょっと気になるな？という時には、早めに歯科医や市の保健師等に相談するのもよいかもしれませんね。園でもお子さんの様子等、きめ細やかに観察し、保護者の方と連携していけたらと思っています。
(文責：新井)

「お口ぽかん」実は病気

子どもの口が常にぽかんと開いていることが気になったことはないだろうか。実は「口腔閉鎖不全」といって、歯並びの崩壊や虫歯のほか、全身にも影響を与える。口周りを舌を締める体操を取り入れ、「お口ぽかん」を予防したい。



「お口ぽかん」の子ども (内藤さん提供)

3～12歳の3割に症状・虫歯など悪影響も



ウェイン ウェイン
各年齢に応じた正しい口の使い方



「お口ぽかん」は、舌が口を閉じられず、舌が口の外に出ている状態を指します。そのまま放置すると、虫歯や歯並びの悪化、さらには呼吸器や消化器の病気の原因にもなります。

「お口ぽかん」は、口を閉じることができない状態を指します。これは、舌が口を閉じられず、舌が口の外に出ている状態を指します。そのまま放置すると、虫歯や歯並びの悪化、さらには呼吸器や消化器の病気の原因にもなります。

閉じる力を鍛えて予防

子どもの「お口ぽかん」を予防するポイント

- 正しい姿勢を身につける
- 子どもの発達に合わせた固さの食事で、よくかむ習慣を身につける
- アレルギー性鼻炎などによる鼻づまりは治療し、鼻呼吸ができるようにする
- 「はっけよいアニマル体操」などの動画を活用し、楽しく口周りを舌を動かす体操を取り入れる
(高橋さんと土岐さんの話をもとに作成)

舌を動かして舌を鍛えたい。舌を動かして舌を鍛えたい。舌を動かして舌を鍛えたい。舌を動かして舌を鍛えたい。

読売新聞 R3.11.25.